

山口県高P連 会報

令和6年2月15日発行

27号

発行 山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館2F
TEL 083-923-4761 FAX 083-923-4785
http://ymg-kpren.jp/ E-mail ymgt.koup@etude.ocn.ne.jp

いあこさし

山口県公立高等学校PTA連合会
会長 田中 幸夫



会員の皆様にかれましては、平素より山口県公立高等学校PTA連合会の活動にご協力を賜

り、厚く御礼申し上げます。

まず初めに、今年1月、能登半島地震、羽田航空事故など心の痛む災害や事故が発生しました。被災、犠牲になられた方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興と関係者の方々のご安全をお祈り申し上げます。

さて、昨年5月より、コロナが第5類へ移行されたとはいえ、まだまだ気を緩められない状況の中、会員の皆様は、各校の活動を再活性化すべく、試行錯誤を繰り返して取り組まれ、多くの子どもたちを支えていただけたこと、大変深く感謝いたします。高P連の全国大会、中四国大会においても徐々に参加者数が戻りつつあり、リアルとオンラインを合わせたハイブリッドという新たな大会の形へと変革が進んでいます。コロナ禍を経て、全国的に、以前の枠組みにとらわれず、新しい今の時代に合った活動の仕方へと変わってきていることが伺えます。本誌では、大会の様子をご紹介します。

いますので、是非ご一読いただければ幸いです。

また、本年度も県内7地区の地区別連絡協議会を全地区開催していただきありがとうございます。各地区で感じておられる思いを収集していただき、高P連として、これらをまとめた要望書を持って、11月22日に山口県教育委員会へ申し入れが完了しましたことをご報告いたします。本年は、継続して申し入れを行っている学校設備改善、いじめ未然防止、部活動の活性化等に加え、新たに、「教員の働き方改革の推進負担軽減」を加えました。業務の多忙化による病休者が増加する一方、教員を志す人が減少しています。この教員の人材不足が、子どもたちを取り巻く教育環境の悪化につながっていることをPTAとしても感じており、改善の取組を強くお願い申し上げます。

さらに、学校の統廃合の方針が急速に進みつつあり、地域との歩調、調和の乱れが発生していると感じられる点についても懸念をお伝えしました。これから先の子ども数の推移をみれば、統廃合はやむを得ないと考えていますが、地域とともに長年歩んできた学校が廃墟とならぬよう、また、通学などで子どもたちや保護者の負担増とならないような対策も併せてご検討いただき示していただきたいと切に述べさせていただきます。

繁吉教育長からは、要望一つ一つの必要

性についてご理解いただけた旨の回答をいただきました。

今後、県教育委員会で予算や緊急性等を踏まえ検討を重ねていただき、実現に向けて進んでいただけると思います。回答書の詳細については、次号にて掲載致します。私たちPTAも、これら要望の実現にあたり、私たちができることに取り組み、子どもたちの教育環境改善に取り組みればと考えています。

皆様と伴に、子どもたちの応援団として、子どもたちの未来が豊かなものとなる様、今後も活動を展開していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

【お知らせ】

令和6年度第77回山口県公立高等学校PTA連合会 総会

日時：令和6年6月7日(金)13:30～
会場：かめ福オンプレイス (山口市湯田温泉)

令和6年度第66回中国・四国地区高P連大会 高知大会

日時：令和6年7月12日(金)
会場：高知県立県民文化ホール (高知市)

令和6年度第73回全国高等学校PTA連合会大会 茨城大会

日時：令和6年8月22日(木)・23日(金)
会場：アダストリアみとアリーナ 他 (水戸市)

県教育長へ要望書提出

地区別連絡協議会

(7地区)及び常任委員会から提出された要望事項と昨年度までの要望事項を再検討し、以下の内容について「令和6年度要望書」として11月22日(水)に田中会長、中村顧問、川野副会長、柴田副会長、奥富副会長、大村副会長から県教育委員会の繁吉教育長に提出し、意見交換を行いました。下記の各要望事項についての回答書を、3月にいただくことになっています。



要望事項

1 子どもたちの健全育成と地域連携教育の推進について

- (1) 学校・家庭・地域社会との連携・協働体制の確立
- (2) コミュニティ・スクール機能の充実

2 施設、設備の充実と安全な教育環境の整備について

- (1) 校舎・施設・設備の老朽化への計画的な対応
- (2) 特別教室、実習室、準備室、体育館への空調設備の設置、トイレの様式化
- (3) ICT機器やネットワーク環境の整備

3 生徒の通学手段の確保と通学時の安全確保等について

- (1) 通学手段の確保と利便性の向上
- (2) 交通安全教室等、事故防止に向けた指導の継続
- (3) 登下校時の安全対策、環境整備の徹底

4 県立高校の再編整備とそれに伴う教育現場への配慮支援について

- (1) 校舎等の部分的な老朽化対策ではなく、全面的な建替えの検討等、「夢ふくらむ再編整備」の実現
- (2) 質の高い高校教育が維持されるような教職員配置
- (3) 遠距離通学生生の負担軽減(奨学金の貸与・支給)

5 キャリア教育の推進と進学支援・就職支援の推進について

- (1) 「やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業」等、各種事業の継続、普及
- (2) 仕事に対しての取り組み方や、やりがいを子供たちに伝える仕組みづくりや体制づくりの推進

6 部活動の充実活性化について

- (1) 部活動指導員の適切な配置、中学校で進んでいる部活動の地域移行

の状況についての情報共有

(2) 「学校部活動の在り方に関する方針」に基づく指導・運営体制の構築

7 いじめの未然防止や相談・支援体制の充実について

(1) 不登校生徒や学習が困難な生徒への学習支援・生徒指導・教育相談体制等、支援機能の充実

(2) 長期休業明けの時期における指導・取組の徹底

(3) 専門家配置の増加及び派遣体制の充実

8 教員の働き方改革の推進や、負担軽減措置の構築について

- (1) 勤務時間の適正な管理等による長時間勤務の抑制
- (2) 新規採用教員のサポートや研修の充実
- (3) 教員の私費負担の軽減

祝表彰

本年度、以下の各団体・個人が表彰されました。おめでとうございます。

◇文部科学大臣表彰

- (団体の部) 山口県立山口中央高等学校PTA
- (個人の部) 銭廣 義和 山口県公立高等学校PTA連合会 元会長 (山口県立熊毛南高等学校 元会長)
- 中村 二郎 山口県公立高等学校PTA連合会 前会長 (山口県立山口中央高等学校 元会長)

◇全国高等学校PTA連合会会長表彰

- (団体の部) 山口県立柳井高等学校PTA 下関商業高等学校PTA
- (個人の部) 中村 二郎 山口県公立高等学校PTA連合会 前会長 (山口県立山口中央高等学校 元会長)
- 佐々木 猛 山口県公立高等学校PTA連合会 前副会長 (下関商業高等学校 前会長)

令和6年度 主要行事予定

月	日	行 事
5	30(木)	令和5年度第5回常任委員会 (山口県教育会館) 令和6年度第1回常任委員会 (")
6	7(金)	山口県高P連総会 (かめ福オンプレイス)
7	12(金)	第66回中国・四国地区高P連大会 高知大会 (高知市) 第2回常任委員会 (山口県教育会館)
	30(火)	
8	22(木)	第73回全国高等学校PTA連合会大会 茨城大会 (水戸市)
	23(金)	
10	2(水)	第3回常任委員会 (山口県教育会館)
R7.1	24(金)	研修会・情報交流会 (会場未定)
R7.2	14(金)	第4回常任委員会 (山口県教育会館)

第65回中国・四国地区
高等学校PTA連合会大会岡山大会報告
県高P連副会長(熊毛北高等学校PTA会長) 山道 香奈

令和5年7月14日(金)、第65回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会岡山大会が、大会テーマ「集まればこころはればれ 晴れの国」「集まる」「話す」の大切さ再発見のもと、倉敷市民会館ホールにて開催されました。中国・四国より約1200名、山口県から65名が参加されました。

PTA連合会の大会に初めて出席したうえに、電車・新幹線に一人で乗ることも初めての私は「はじめてのおつかいシリーズ」と、はやし立てられながらの出発となりました。切符の出し方が分からず、駅員さんに誘導してもらったのは、ここだけの話。無事に皆さんと合流し、いざ、倉敷散策です。倉敷といえば「美観地区」。風光明媚

媚な川舟を見て心躍り、倉敷銘菓のくらしき桃子の白桃パフェを堪能し、大原美術館でピカソやダリの絵を鑑賞し、高貴な気分になり、最後はお金にしか見えなくなり、そんな自分を必死に追いやり、ノスタルジックな風景に、しばし時間を忘れて楽しみました。

そしていよいよ大会です。紀行作家・建築士の「稲葉なおと」氏から、「倉敷から始める家族旅」と題して講演がありました。稲葉氏はB'zの稲葉浩志のいとこだそいで、興味をそそられました。検索では出てこない豆知識こそ価値があるということで、高校生の心を動かす旅の豆知識56個、おすすめのお話やアイビースクエアなどのお話を聞きました。講演の帰り道、稲葉氏が



示された写真と同じ場所を見つけながらの散策が、とても楽しかったです。

午後からは、高校生による活動発表があり、倉敷古城池高校・倉敷商業高校・倉敷翠松高校の生徒さんの素晴らしい発表がありました。

研究協議では、広島県立広島皆実高校が作成したDVDの上映は一番反響が多く、学校とPTAが同じ方向と同じ思いであったからこそ実現した内容でした。徳島県立吉野川高校のPTAと先生、生徒と一緒に調理研究して楽しんだ活動の発表からは、学校とPTAの信頼関係の強さを感じました。倉敷南高校の外部からの支援についての発表では、OB・学校・保護者の皆様の子供達への思いの強さを感じました。また、一つではなく、二つ三つと状況に応じて選択できるPTA活動の在り方の話を熱く語られました。今回このような大会に参加させて頂



き、PTAの皆様の熱量・熱意に感嘆し、コロナ禍でPTA活動の制限が続いたことから、これまでとは違う新しい活動の必要性を痛感させられました。さらに、これからの新しい時代をPTAと先生方が協力し合い、子ども達のために、子ども達を支え、ともに成長し、子どもたちが安心して学び生活できるよう支援していきたいと思いを新たにしました。

**第72回全国高等学校
PTA連合会大会宮城大会報告**
県高P連副会長(秋高等学校長) 奥富 智昭

「豊かな杜につぐむ虹の光」しなやかな強さで生き抜く力をメインテーマとし、8月24日(木)8月25日(金)の2日間、晩夏の真つ青な青空の下、仙台育英学園高等学校の甲子園準優勝の興奮が冷めやまぬ杜の都仙台で第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会が開催されました。今回も昨年同様に対面、オンライン参加を併用して北は北海道から南は沖縄県から高等学校PTA代表約6400人が、山口県からは51人が参加して大いに盛り上がりました。

大会1日目

大会アトラクションは、宮城県内の高校生合同合唱団による「花は咲く」の合同上映がありました。この曲は2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援ソングとして作成され、今でもいろいろな方に歌い続けられています。

6つの分科会に分かれ、テーマに沿った基調講演やパネルディスカッションが行われました。私は第5分科会の防災・減災教育テーマは「いのち

と希望を未来につなぐコミュニティの光」に参加し、東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐藤翔輔氏から「実践的な災害対応能力を身につけるためのこれからの防災教育案」を拝聴しました。豪雨や強い揺れなどの災害を起こすきっかけに目が行くが、災害の大きさを決めるのは、脆いか弱いかとい



う脆弱性である。命を守る効果が一番高いのは災害が起こるリスクが高いところに住まないなどのリスク回避することである。VUCAの時代を生き抜く子供たちに身につけてもらいたいことは、災害・防災・減災を知り、リスクに対して回避・緩和・転換・受容の4つの手段があることを理解して災害の記憶の体験を体験者から対話などを通じて直接学び共有する事の大切さ、学んだことを固定化しないで常態化することが重要である。また震災はどのように共有されているか、保護者の立場、生徒の立場、教員の立場からそれぞれの震災学習や伝承活動など様々な

体験談や取り組み活動が報告されました。今後の必要な取り組みとしてPTA・学校・地域との防災に関する更なる連携、地域防災リーダーの育成や防災意識の温度差は生活する地域により違いなどあり解消などが必要であります。また、被災を乗り越えるだけでなく、自分の隣り合う人の命や尊厳などを見つめ直す防災を通じた防災という教育が今こそ必要だと思います。子供たちも今後国内外の様々な地域での進学、社会人として生活をはじめます。いつくるかわからない危機困難に対応できる生きる力を養い得られた



知識を固定化せず、リスクを回避、緩和できるように努めて欲しいと思いました。

大会2日目

大会アトラクション「白A」によるプロジェクトマッピング。2002年宮城県広瀬高校同級生を中心に結成されたエンターテインメント集団「白A」によるプロジェクトマッピングを駆使しパフォーマンスとテクノサウンドを融合させたアトラクションが披露され素晴らしいと称賛されました。表彰式では令和5年度優秀PTA文部科学大臣表彰に山口県立山口中央高等学校PTA様、令和5年度PTA活動振興功労者表彰に銭廣義和山口県公立高等学校PTA



連合会前顧問、中村二郎顧問の方々など、山口県からは3名の個人・3団体の表彰状が授与されました。

記念講演では時の人、仙台育英学園高等学校 硬式野球部監督 須江航氏に「伝わる言葉、失敗から学ぶ」という演題を講演していただきました。甲子園準優勝から2日後の講演ということで会場は最高の盛り上がり、ご自分の経験と理念を熱く語られる姿に冒頭からひきこまれました。「人生は敗者復活戦」と甲子園で敗北後に語った言葉は、須江監督の座右の銘。「大切なことは挫折と向き合うこと」「挫折のない人生なんてないし、面白くないし、存在しない。みんな挫折してるんだよってことを理解してほしい。そこから面白みを感じて努力することが大事」また須江監督は野球の技術を見せることはできないが、言葉や情報を整理することしかできない。指導で関わる中で伝わる言葉ってどうしたらいいのかなと考えていて、結局伝わる言葉の結論は1つしかないのです。相手が聞きたいことしか伝わりません。私が伝えたいことが伝わるのではなく、相手が教えて欲しい聞きたいことしか伝わりません。本当に伝えたいと思ったら生徒に聞くしかない。聞くことが、ほぼ全てだと思います。何を求めているか聞くしかないんです。と、須江監督の熱いお話でした。

須江監督は、野球を通じて社会に出

て生き抜く力を養って欲しいと言われています。高校生活は人生の土台作りに大切な時期だと改めて認識し、子育ての期間を楽しみ関わることの大切さを考える機会となり、会場を埋め尽くした私たち保護者の子育ての緊張を和ませてくれました。

閉会式の最後には、「歴史の町で変革を!!」と新たな時代が目に入らぬかのスローガンとして、来年度は茨城県で開催されることとなっております、水戸黄門様に仮装した茨木大会実行委員長さんへ引き継ぎが行われ無事閉会となりました。

各地区で連絡協議会を開催しました

- 1 岩国地区 (12月5日)
主管校 岩国総合高等学校
- 2 柳井地区 (6月27日)
主管校 熊毛南高等学校
- 3 周南地区 (8月21日)
主管校 華陵高等学校、下松高等学校
- 4 山防地区 (7月28日)
主管校 防府商工高等学校、山口中央高等学校
- 5 長南地区 (8月7日)
主管校 小野田工業高等学校、美祢青嶺高等学校
- 6 下関地区 (8月4日)
主管校 下関双葉高等学校、下関商業高等学校
- 7 長北地区 (7月21日)
主管校 大津緑洋高等学校 (大津校舎)

【事務局からのお知らせ】

山口県公立高等学校PTA連合会ホームページから、これまでに発行された全国高P連会報、山口県高P連会報をご覧になることができます。

ぜひご覧ください。

(<http://ymg-kpren.jp/>)

学校紹介

山口県立下関双葉高等学校 PTA会長 山崎利幸

本校の概要

本校は昼間部と夜間部を有する、2部制定時制課程、総合学科、単位制の高校です。下関市内に存在していた3つの高校の夜間部定時制課程が募集停止となり、平成31年4月に、山口県初の多部制定時制の独立校として開校しました。校舎は、統廃合に伴い閉校となつた山口県立下関中央工業高等学校の跡地を活用しています。現在は、山口県立下関総合支援学校高等部（以下、下総）も移転しており、一つの校舎を2校で共有しています。現在、昼間部には約80人、夜間部には約40人の生徒が在籍しています。生徒の大半は10代ですが、20代以上の方も在籍しています。

定時制課程の生徒は1日4時間の授業を受け、4年間かけて学びますが、本校では、通常の授業に加えて3年修業制度（三修制）を導入しています。

スクール・ミッション



開校準備室設置式
【平成31年】

これにより3年間で卒業を目指すことができ、多くの生徒がこの制度を利用しています。また、総合学科では、一年次で共通科目を学んだ後、二年次以降になると系列「普通」「工業」「商業」に分かれて学習します。本校は制服がなく、服装や髪型の規定も緩やかで、自動車やバイクの免許取得を制限しないなど、柔軟性があり、制約が少ない高校です。また、生徒に対して就労を奨励しており、多くの生徒がアルバイトなどで働きながら学んでいます。「社会のルールが下関双葉のルール」として、社会性の育成に努めています。



入学案内

効果的なキャリア教育等を通して、確かな学力や、お互いを認め合い協働して物事に取り組む態度、社会に貢献しようとする意欲を育み、自立して社会を生きていくことができる人材を育成します。

スクール・スローガン

「自分の未来を見つける場所」

本校には、不登校経験者や学び直しを志す生徒、障がいを抱えた生徒など、さまざまな事情を抱えた生徒が多く在籍しています。それぞれの事情により、小中学校時代に学校にあまり通えなかった生徒や、まだ自分の夢や目標を見つけられていない生徒が多数います。

本校の教育システム（多部制定時制、総合学科、三年修業制度）や社会経験を通して、生徒たちが自分らしいスタイルで学びをすすめる、自分の未来を見つける手助けをしたいという願いを込めて、令和4年度に制定されました。

進路指導

進路状況		R3	R4
大学	国公立	1	3
	私立	4	8
短期大学		1	1
専門学校		8	7
就職		5	18
その他		4	14
合計		23	51

【図1】

「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を中心に、進路意識の向上と社会人基礎力の育成を目指して、本校では積極的にキャリア教育を実践しています。本校は新設校であり、進路開拓においてはゼロからのスタートでした。最初の2年間は、本校の存在を周知させることに重点を置くとともに、きめ細かいキャリア教育の推進や進路面談を重ね、生徒の可能性を探りました。過去2年間の進路状況は図1のとおりで、全員が希望進路を実現しています。昨年度の実績では、進学においては、下関市立大学を受験した3人全員が合格し、進学しました。また、就職においても、山口銀行やJR西日本などの企業にも就職しています。その他の生徒は、現業やアルバイトをそのまま継続している者や、3年間の努力の結果、1年ゆっくりしてから次の進路を考えようとする者がいます。

下関総合支援学校との交流

併設の下総の授業に参加し、下総の文化祭「下総ふれあいまつり」で販売するマグカップの企画、デザイン、制作を共同で行いました。

本校生徒と下総生徒が触れ合い、共に活動する、「交流及び共同学習」は、両者にとって経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となります。



オリジナルマグカップ

PTAの組織について

PTAは、保護者と学校が緊密に連携し、地域全体を巻き込んで生徒たちの健全な成長を促す組織です。しかしながら、本校は多部制定時制高校のため、全ての生徒が同じ時間を共有することができません。こうした状況のなかで、下関双葉高校は一人ひとりの実情に寄り添う先生方の手厚いサポートに支えられ、生徒たちは困難に立ち向かいながらも、

毎日楽しく生き抜こうとしています。子どもたちの健康で文化的な成長を促すためには、私たち保護者のサポートが不可欠であり、できる限りの支援が求められます。

全日制高校のPTAと同じような活動を展開することは難しいかもしれませんが、必ずしも同じことを行う必要はありません。下関双葉高校PTAでは、生徒・保護者・教職員それぞれのポジションを尊重し、「できることをできるだけ」を合言葉に、活動しています。

PTAの立ち上げから現在に至るまで

1年目は右も左もわからないまま、学校運営協議会や県高Pの地区会など、「会長が出席する会」に出席するのみでした。そうこうしていると、新型コロナウイルスの猛威が日本中を襲い、2年目は活動を全く行うことができませんでした。3年目、初めての卒業式に向けて様々な準備が進む中で、学校（生徒会）の取組の一環として、「桜の記念植樹」に立ち会わせていただきました。その時ふと、会長の頭に「生徒たちは、学校生活の中で写真を撮ってきたのかな？」という疑問がよぎりました。コロナで制限ばかりの3年間、行事



第1回PTA総会



PTA役員会の様子

もできずクラスメートはマスクを付けている顔しか見たことのないのではないかと考えました。他の役員さんと相談し、考えついたのが写真フレームでした。卒業式当日、多くの卒業生と保護者の方が最高の笑顔で写真を撮る姿を見て、とても嬉しく思うと同時に小さな達成感を感じました。4年目、2代目（現会長）に交代しました。小中学校でのPTA会長の経験をともに、不定期ながら役員会を開いたり、生の声を聞くために、生徒会と意見交換を行ったりして、様々な提案をし、実行しました。更に、少ないながらもPTAが頑張っていることを知ってもらうため、広報誌を創刊することができました。そして、5年目の今年、新型コロナウイルスが感染症法第5類に緩和されたことから、PTA活動をどう拡大していくかが課題でした。

子どもたちの健全育成と学校運営への支援について、PTAとしてできることはないか模索しています。思い出に残る卒業式を迎えられるよう、PTAによる美化活動を計画しています。将来的には、学校が実施している様々な行事を共に企画したり、キャリア教育などに参画したりと、構想はどんどん膨らみます。しかし、PTA活動は多くの保護者協力が必要であり、皆さんに「それくらいなら参加してみようかな、手伝ってみようかな」と思ってもらいたくことが大切です。縁あって同じ学校に我が子が通うことになったもの同士、膝を交えて腹を割って、一緒に楽しい時間を過ごせたらと思っています。

今後のPTA活動



写真フレーム

「地域創生科」の取組

「胸を張って」社会に飛び立とう!!

山口県立周防大島高等学校 教諭 河村 尚樹

本校は、平成18年に設置されて以来、栄えある歴史を誇る安下庄高校と久賀高校の伝統と教育機能を継承する周防大島唯一の高校で、現在、地域創生科（ビジネスコース、福祉コース）・普通科（特別進学コース、普通コース、環境コース）の2学科5コースを設置しています。今回は、そのうちの全国に一つしかない地域創生科の生徒達の取組について紹介します。



商品開発メンバーと龍神乃里スタッフ

現在、地域創生科ビジネスコース（2・3年次生）と福祉コースの有志（3年次生）は、周防大島（立岩）にある合同会社龍神乃里とコラボし商品開発に励んでいます。

龍神乃里の経営者である村上雅昭様には、週に1度、仕事の合間に授業に参加していただいています。今回のコラボは、村上様から生徒達への「失敗してもいい。一生懸命やるのが大事」という言葉からスタートしました。商品開発を通してビジネスのノウハウを身に付けるのはもちろんですが、1番の目的は、生徒達が「壁にぶつかった時に這い上がる人材」「胸を張って社会に飛び立てる人材」の育成です。

今回の商品開発のコンセプトは、「地元の方にも観光客にも長く愛される塩飴づくり」にしました。

塩飴の商品化に向けて最初に取り組んだ活動は、塩について知ることです。塩職人の松田昌樹様から塩について学び、知識を高めました。この知識を活かし、周防大島に修学旅行にきた中学生に向けて実施した塩づくり体験で、中学生を指導しました。



村上様（龍神の里）による授業

次に、商品を売ることの難しさを知ることです。定期的に校内で販売実習や広島駅などのイベントに参加し、商品を販売しました。この経験の中で、商品を置いてあるだけでは売れないことや、どのような人が何の商品に目を向けて購入しているのかを考えさせることができました。また、商品の配置の仕方、礼儀、立ち振る舞い、お客様の接し方などを身に付けさせることができました。

そして、働くことの厳しさについて考えさせました。週に1度は龍神乃里へ伺い、就業体験を行いました。内容は、塩窯で使用する薪の準備、窯の清掃、塩詰め、パッケージ貼りなどです。お客様の手に届く商品となるモノを扱っているため、事前にミーティングを行い、作業に入ります。作業で

は、①仕事を覚えるために、人の話をしっかりと聞き、他の従業員の姿を見ることが②どのようにしたらもっと上手に作業ができるだろうといった「問い」常に頭の中に置いて作業に取り組むこと③スピード④美しさの4つを意識させ、⑤1つだけの仕事をするのではなく、同時に2つ・3つ仕事ができるようになることを目指しています。

以上の基礎・基本の活動で学んだことや感じたことを常に念頭に置きながら、本題の塩飴の商品化に向けて取り組みました。

本題の商品開発に向けて、まず取り組んだ活動は市場調査です。市場調査では、広島駅や県内のスーパーなどへ行き、「どのような塩があるのか」「ど



販売実習の様子

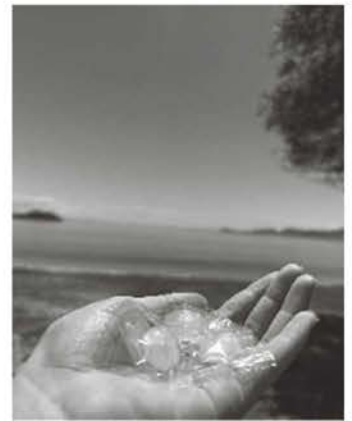
のような人達が購入しているのか」を調査しました。

次に、市場調査やメンバーの意見をもとに生産者の候補や味について検討し、企画書の作成を行いました。その後、実際に生産業者に出向き、交渉し、味（フレーバー）の提供について協力をお願いしました。どの企業の方々も親切で丁寧に対応してくださりました。そして、塩飴の味の候補に挙げられたものから、龍神乃鹽味・龍神乃里の蜂蜜味・美祢市の秋芳梨味・柳井市のいちご味・宇部市の小野茶味を商品化することに決定しました。味は、全てメイドイン山口にすることができました。

味が決定した後は、東京のデザイナーの方とデザイン会議を行いました。会議では、瀬戸内海の美しい海を表現するために、どのようなパッケージや商品名にしたらよいか話し合いを重ねました。様々な案が出ましたが、最終的な商品名を「瀬戸内のダイヤ」としました。パッケージについては生徒のイメージした通りにデザインを制作していただき、多くの案から1つに絞ることができました。



デザイナーさんとのデザイン会議



塩飴の試作品

商品の完成は2月頃です。販売場所は、山口県内の道の駅やホテル、岩国錦帯橋空港、錦帯橋周辺の土産物店、東京の西武渋谷店、広島駅などです。生徒達が一生懸命開発した商品が、地元の方にも観光客にも長く愛されることを願っています。店頭で並んでいた際には、手に取っていただけると幸いです。

この商品開発を通して、生徒だけでなく、私自身もプロの現場を間近で見て、感じることで、貴重な経験を心得て成長させていただきました。

最後に、龍神乃里の村上様には、無償でこの取組を引き受けていただきました。高校生に対して、情熱があり、時間をかけて生徒と向き合い、成長させてくれる人は数少ないと思います。また、この取組を支えてくださった龍神乃里の皆様や商品開発に関わってくださった皆様にも、感謝の気持ちでいっぱいです。厚く御礼申し上げます。これからも地域創生科は、「壁にぶつかった時に這い上がれる人材」「胸を張って社会に飛び立てる人材」の育成を目指して精進して参ります。

高校生の活躍

地域の伝統を継承 甲子園で、やましろ神楽を舞う

山口県立岩国高等学校坂上分校 教頭 西村 久典



「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」昨年度の学校運営協議会でのこの一言がはじまりでした。

坂上分校は、昭和23年山口県立坂上高等学校としてスタートし、平成20年の学校の再編・統合により、山口県立岩国高等学校の分校となって今に至っています。分校訓「円成(えんじょう)」「笑顔(えんご)を絶やさず、協力して物事を最後まで成し遂げる」のもと、現在46名(うち28名が地元中学校出身)の生徒が、自然豊かなこの学び舎で、共に学んでいます。

令和4年度から高等学校に新学習指導要領が導入されることを受け、坂上分校でも新しい教育課程をつくることになりました。そこで課題として持ち上がったのが「総合的な探究の時間」をどのように活用するかです。坂上分校では、これまでの生徒各々の探究学習に加え、3年間を通して地域を学ぶ学習活動に取り組むという目標を設定しました。では、具体的に何に取り組むか？地域の方々に相談したその答え

が、「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」だったので。旧美和町(平成18年岩国市と合併)には、石見神楽「出雲流の神楽」の流れをくみ、江戸時代から受け継がれている山代(やましろ)神楽があり、地域のお祭りには欠くことのできないものとなっています



す。地域の宝であるこの神楽を、学校の地域学習カリキュラムに組み入れ、生徒がその研究と伝承に取り組み、生徒自身が神楽を舞い、地域で上演することができれば、探究学習の目標を達成するだけでなく、地域に元気を与えることができるのではないかとということになりました。

神楽を生徒に伝承させるためには、指導者が不可欠です。そこで、その大役をお願いしたのは巻郷PTA会長です。巻郷会長は、山口県指定無形民俗文化財「山代白羽神楽」を伝承する山代白羽神楽団の代表も務めておられ、まさにうってつけの方です。このような経緯で坂上分校の神楽の授業がスタートしました。神楽の授業は、2年生の「総合的な探究の時間」で行われています。山代神楽の歴史についてレクチャーを受けた2年生11名は、衣装製作班と楽士(笛、太鼓、鉦の習得)班に分かれ授業に取り組みました。実際に神楽を舞う生徒は、2年生と神楽経験者2名を含む3年生の有志が名乗りをあげ、坂上分校神楽クラブを結成し、放課後を中心に練習に取り組みました。

このようにして神楽の授業が始まった5月のある日、大きなニュースが飛び込んできました。なんと坂上分校神楽クラブの「第12回高校生神楽甲子園ひろしま安芸高田」への出場が決まったのです。この大会は、神楽に取り組み高校生たちが一堂に会し、日々練習に取り組んでいる舞いを披露する



正に神楽界の甲子園で、今年度は全国から選抜された20校の出場が決定、その中に本校神楽クラブも選ばれたのです。決定以降、目の肥えた神楽ファンの前で恥ずかしい舞いはできないと、クラブの練習は日々熱を帯びました。授業では、楽士の生徒の楽器の練習と、本番で生徒が着る鬼の衣装の製作が急ピッチで進められました。神楽甲子園での演目は「三鬼」。ある目標を達成させようとする太夫と、その心の闇に隠れた欲望が争うという悪魔払いの舞で、目標達成途中、困難や苦悩により様々な誘惑に誘われ、一時的な快楽を求めてしまう気持ちを鬼に例え、太夫

はその欲望である鬼と格闘し、最後には打ち勝つことができる。その後は、より強い思いを持ち目標を叶えることができるという、人間の心の問答を神楽化したものです。

7月22日、広島県安芸高田市の神楽門前湯治村神楽ドームを会場に「第12回高校生神楽甲子園ひろしま安芸高田」が本番を迎えました。朝8時30分、生徒たちはバスで会場へ。会場へ着くと、すでに他校の演技が始まっており、神楽ドームも多くの神楽ファンの方々にいっぱいでした。緊張感の中、出演時間まで、楽士の生徒は直前まで演奏のリハーサルを、出演する生徒たちはステージでの立ち位置等の最終確認に余念がありません。

12時40分、いよいよ坂上分校神楽クラブの「三鬼」の上演が始まりました。静かな滑り出しでしたが、総勢7体の鬼が登場すると会場は割れんばかりの拍手に包まれました。後半は、太夫と大鬼がステージを降り、客席で観客を巻き込んでの大立ち回り。会場は、この日一番の盛り上がりを見せました。太夫、大鬼、小鬼、そして楽士の計11名が存分に練習の成果を発揮してくれ、神楽甲子園出演は大成功の内に幕を閉じました。

「授業で、神楽をやったらええじゃろう。」の一言から始まった神楽の授業ですが、巻郷PTA会長を中心にPTAと神楽団、地域の方々をも巻き込み、今や学校を代表する大きな取組となっています。この取組が、テレビで

放映されたこともあり、地域のみならず、県全体に知っていただくことにもなりました。神楽甲子園以降も、岩国民俗芸能まつり、錦帯橋創建350年記念錦帯橋芸術祭等から出演依頼をいただき「三鬼」を上演いたしました。そして現在、「総合的な探究の時間」の最終発表会での今年度最後の舞いを成功させるべく、引き続き神楽に取り組みんでいます。授業を通じて、生徒それぞれの中に地域の伝統や文化を絶やしてはいけないという気持ち、自分自身が中心となって地域を盛り上げていくという使命感が、確実に育っているとと思います。引き続きPTAや地域と協力し、この活動に取り組んで参ります。



全国制覇く輝ける一矢の誇り

山口県立南陽工業高等学校 弓道部顧問 若狭 裕二

令和五年度の全国高校総体（インターハイ）において、南陽工業高校弓道部が男子団体で優勝を果たしました。一昨年ぶり、二度目の全国制覇となります。

このような結果を得られたのも、皆様のサポートやご協力のおかげであり、選手自身が目標に真剣に向き合い、日々の積み重ねを大事にしてきた結果だと思えます。昨年度はインターハイ五位、選抜大会第二位とあと一歩というところでした。今年度は選手全員が三年生ということもあり高校生活総決算の試合に臨むということで、周囲からの期待やプレッシャーに葛藤しながらも目標達成に向けて真摯に取り組んでくれました。優勝に至るまでの日々の努力と根気、仲間たちの連帯感が、この栄光を彩りました。

数々の試練に立ち向かいながら、団結力と情熱を胸に刻み込みました。練習の日々は決して楽ではなく、時には挫折も味わいましたが、その中で培わ



れた信頼と絆が、最終的な成功につながりました。

弓道は日本の伝統的な武道であり、その深い意味と技術は日々の練習と研鑽を通じて磨かれています。また、単なるスポーツに留まらず、一射一射に心と技が交わり、芸術的な瞬間が生まれる競技です。選手たちが示した団結力と個々の向上心は、まさに模範となるものでした。日々の練習での一体感が競技の場でもそのまま発揮され、選手たちが個々の実力を高めつつも、全体としての強さを築いていった姿勢が



印象的でした。

試合当日、舞台裏では緊張と期待が入り交じる中、一射一射の瞬間には、選手たちの集中力が光り、見るものを引き込む魅力がありました。

優勝が決定し、笑顔の中、選手たちのこれまでの努力と犠牲が報われた瞬間を共有しました。これは彼らの栄誉であり、学校全体の栄光でもありません。また、あの舞台に立たせていただき、最高の舞台の景色を見せてもらい、その一翼を担えたことを誇りに思っています。そして、選手たちには感謝の気持ちでいっぱいです。弓道は技術だけでなく、心の成長をもたらす旅路であり、その旅路が彼らにとって豊かなもので

あることを信じています。

この勝利が学校コミュニティに勇気と感動をもたらし、未来の生徒たちにとっての原動力となることを願っています。

最後に、この優勝に至るまで支えてくださった保護者の皆様に深く感謝申し上げます。今は、新チームになり、新しい目標に向かって進んでいます。先輩たちが残してくれた想いと良い伝統を引き継ぎ、向上心と感謝の気持ちを忘れずに精進し、新たな挑戦に果敢に立ち向かって行きたいと思っています。皆様の温かいご支援に感謝し、これからも変わらぬご声援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度「高校生熟議2023」開催



令和5年11月21日（火）熊毛北高校において開催された高校生熟議の様子について紹介します。5〜6名からなる全10グループ（グループ構成例…2学年の生徒4名、学校運営協議会委員1名、教員1名）に分かれ、「校則について」というテーマで、各グループの企画案作成に向けて熟議が行われました。総合司会者（代表生徒）による全体進行及び各班の議論を促進させる役割のファシリテーター（あらかじめ2回の研修に参加した生徒会役員）の

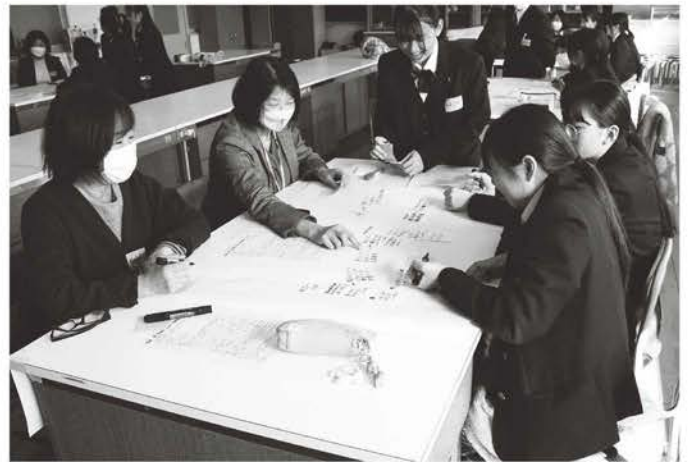
進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半（第1ラウンド）「約25分」では、校則の現状や課題について意見を出し合い、後半（第2ラウンド）「約25分」では、課題等の解決のための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後に、各グループの発表（各2〜3分）が行われ、「アルバイト・服装・頭髪」が行われ、「スマホに関する各規程の見直し」等についての提案や提案理由の説明がありました。

高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ、共有し合いながら、現在の校則の課題に気づいたり、改善案を提案したりすることで実りの多い熟議となりました。後日、各グループが模造紙に作成した熟議のフロー図を生徒昇降口に掲示し、全校生徒・教職員で共有しました。

高P連の後援による「高校生熟議」は熊毛北高校では今回が2回目の取組です。高校生熟議は、山口県や地元地域、各学校における様々な課題について高校生の視点で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるということを目的の一つとしている取組です。熊毛北高校では、昨年度の熟議での提案が、生徒総会を経て

実際の校則改定へつながったそうです。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されま



令和5年度 小中高PTA・校長会 連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力を図る趣旨から企画され、今年度は高P連が主管担当し、11月22日(水)に開催されました。

協議及び情報交換では「コロナ後のPTA活動の現状と課題」や「部活動の地域移行」「小中高連携の事例」等についての情報交換や意見交換を行いました。課題解決に向けた好事例を共有するとともに、改めて情報や意見を共有することの大切さを実感する会となりました。

今後もこの協議会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させていくことにつながる機会となるよう取り組んでまいりたいと思います。



見舞金給付事業

- ☆ 傷病見舞金
 - 補償期間 4月1日～翌3月31日
 - 見舞金負担金
 - 全日制 300円
 - 定時制 150円
 - 被保険者
 - *生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）
 - 見舞金 (最高4万円)
 - 香料 3万円
 - *保護者（PTA活動中のみ）
 - 入院見舞金 最高3万円
 - 香料 3万円
- ☆ 障害見舞金10万円
- ☆ 死亡見舞金10万円

各校PTAの構成員である

先生方のための補償制度

山口県公立高等学校PTA連合会 教員総合補償制度

主な補償内容 (2024年2月現在の内容です。)

- ① 先生方の職務遂行に起因する法律上の損害賠償責任を補償<施設所有(管理)者賠償責任保険>
- ② 先生方の個人生活に起因する法律上の損害賠償責任を補償<普通傷害保険個人賠償責任補償特約>
- ③ 先生方のケガの24時間補償<普通傷害保険>

詳しくは下記取扱代理店・扱者

フリーダイヤル 0120-084-025

「教員総合補償制度係」までお問い合わせください。

制度引受
保険会社 **AIG損害保険株式会社** 中国・四国地域事業本部(広島支店)

〒730-0011 広島市中区基町12-6 AIG広島ビル TEL 082 (535) 6010

受付時間:午前9:00～午後5:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

取扱代理店・扱者 **株式会社ベストインシュアランス NOSCO事業部**

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 TEL 0120-084-025

受付時間:午前9:00～午後5:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

[承認番号 D-006946 (2025-03)]

令和6年度 山口県ひとづくり財団

高等学校等奨学生募集のお知らせ

山口県ひとづくり財団では、向学心に富み、有能な素質を有しながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対し、奨学金の貸与(無利子)を行っています。

《出願の資格》

- 保護者等が山口県内に住所を有しており、高等学校等に在学している者
- その他団体の貸与型の奨学生でない者

《募集期間》

令和6年4月8日(月)～4月30日(火)

※出願に必要な書類の入手、提出は学校経由となります。
詳細は、学校または奨学センターにお問い合わせください。

公益財団法人 山口県ひとづくり財団

奨学センター

753-0072 山口市大手町2番18号

山口県教育会館内

☎ (083) 933-4770

HP <https://www.hito21.jp>

